

## 山形県教育委員協議会の概要

### 1 日 時

令和7年12月23日（火）14時57分～15時22分

### 2 場 所

山形県庁舎教育委員室

### 3 意見交換テーマ

学校・家庭・地域の連携・協働の推進による地域の教育力の向上について

### 4 主な発言要旨

- ◇ 子育て支援の活動を通して、学校の先生や保育に携わる方々がしっかりと子ども達を教育し、見守っているのかといった、監視の眼差しが向けられているような息苦しい社会と思うことがある。これは、子どもに関わる教育や保育が「やってもらって当たり前」のサービスになっている傾向が強くなっているからではないかと感じている。改めて子どもの教育を「自分ごと」として捉える意識付けが大切ではないか。（丹治委員）
- ◇ 今年から県が実施する「やまがた教育パートナーズ」は、企業・団体等の得意分野を生かして子ども達の体験活動や学びを充実させる事業であり、子ども達にとって地域の企業を知るきっかけともなり、非常に良い取組みと感じる。これをさらに一歩進めて、子どもと年齢が近い若い社員との交流を盛り込むことで、子ども達にとってより身近なロールモデルを体感できると思われる。（丹治委員）
- ◇ 学校・家庭・地域の連携・協働の推進は、家庭教育支援の充実や地域との連携強化など、その進め方や評価が抽象的なものになると考えられるため、第7次山形県教育振興計画に掲げる目標の達成状況や進捗状況をしっかり調査し、結果を把握して取り組んでいく必要があると考える。（手塚委員）
- ◇ 子ども達が主体となって参画できる事業を地域の団体が企画し、学校を通じて参加を募っても、なかなか子ども達が集まらないと聞く。こうした課題への対応として、「やまがた教育パートナーズ」を活用することで、学校と地域が連携して周知に取り組んでいければ、地域の団体による子ども向けの事業がより効果的に展開できるのではないかと期待している。（手塚委員）
- ◇ 長井市では、「Nagai Teens' University」という事業を実施しており、中学生に対して、専門知識・技術を有する講師が大学レベルの講義を提供する取組みを行っている。中学生にとっては高度な内容と思われるが、中学生が大学の学びを体験することができ、子ども達の学びのきっかけをつくる一つの方策と考える。また、これらの講義では、専門の講師の方々がなぜその学問をしているかといった学びの本質についても語られており、子ども達の学ぶ意欲を生み出すきっかけにつながると感じている。（小関委員）

- ◇ 最近の子どもへの教育は、（丹治委員の発言にもあったように、）学校だけに任せすぎている現状があると感じている。将来の職業選択は、学校でのキャリア教育だけでなく家庭でも担い、また、一方で様々な人と関わり人間力や課題解決力を養う社会教育は地域でも担うなど、教育における学校・家庭・地域のバランスが重要と考える。（工藤委員）
- ◇ 地域における学びを担うことのできる人材が不足していると感じている。新庄市では「学びの土壤づくり」という、地域の大人が子どもと一緒に地域の課題や子どもへの教育を学ぶ取組みを行っている。このような取組みを通して、教育を「自分ごと」として捉え、地域における学びを担うことのできる人材を育成していくことが重要と考える。（工藤委員）